

貿易の最前線で、日々さまざまな輸出入品目に向き合う



かたおか・てるみ●1969年東京生まれ。1989年短大卒業後、当時の阪急交通社*入社。1991年通関士試験に合格、3年後に通関士登録される。阪急阪神エクスプレスで現在、輸出通関に携わる。日本通関業連合会の全国女性通関士会議にも参画し、通関士の認知度向上にも取り組んでいる。中学生、小学生の二児の母でもある。

インタビュー

通関士

片岡照美さん

株式会社阪急阪神エクスプレス 東日本通関部京浜通関支店
輸出通関センター 通関一課二係長

通関士という仕事は、あまりよく知られていない面も多いようです。通関士は通関業者に所属し、輸出入者から依頼を受けて税関への輸出入通関手続きを行います。片岡さんはベテラン通関士として常に新しい法律や商品情報の収集に努めるとともに、通関士の認知度向上の活動にも力を入れています。

旅行部門志望から「通関」へ

—このお仕事に就かれるまでの経緯を教えてくださいませんか。

片岡 短大で貿易英語を学んでいました。就職活動では、実は旅行部門に行きたいと思って阪急交通社を受けたのです。会社の業務として国際輸送部門と旅行部門の二つがあるということでしたが、国際輸送というのは正直ピンと来なかったですね。

—そのときに通関士というものはご存じでしたか。

片岡 いいえ。入社して国際輸送部門に辞令が下り、研修時に仕事の内容が

わかり、通関士という国家資格があるということを知りました。配属されるまではやはり旅行の仕事をやっていたのですが、辞令が下りてからは通関の道を進んでいこうという気持ちになっていましたね。以後今まですつと通関の仕事をしています。

入社3年目に通関士試験を受け、合格しました。今まで一番勉強しましたね。一度で受かるというのはなかなか難しいので、周りは少し驚いたみたいです。私の入社当時は女性がまだ少ない時代で、社内では女性通関士第2号でしたが、全社的な通関士の数は多かったのですが、目指す道があると思っていました。

通関士試験に合格してもすぐには通関士にはなれず、「通関士資格保有者」です。そこから社内で力量を見ながら通関士として十分業務ができるという判断をされ、税関に登録してもらって初めて通関士になります。私は入社3年目で試験には合格しましたが、それからさらに3年間実務経験を積み、登録に至りました。試験の合格のときにもまして嬉しかったのですが、責任も感じましたね。

—通関士というのはどのようなお仕事なのでしょう。

片岡 輸入・輸出をするときは、貨物の品名、種類、数量、価格などを税関に申告して必要な検査を受け、輸入の

場合にはさらに関税や内国消費税を納付し、許可を受ける必要があります。申告は輸出入者が自ら行うこともできますが、手続きは専門的知識を要するので、当社のような通関業者に委託されるのがほとんどです。税関への輸出入通関手続きを代行する通関業者は、通関士を配置することが義務づけられていて、通関士は通関書類の審査をして記名押印(電子情報処理組織《通称：NACCS》)による申告にあっては、通関士識別符号を入力し、その申告に責任を持ちます。

私は輸出を担当していますが、輸出入者から入手する通関の書類には、さまざまな品目(品名)が書いてあります。それぞれの品目には税関に申告するための品目番号が決まっています。輸出統計品目表などを参照しながら所属区分に見合った品目番号を決定し、申告価格の計算をして輸出申告書を作ります。

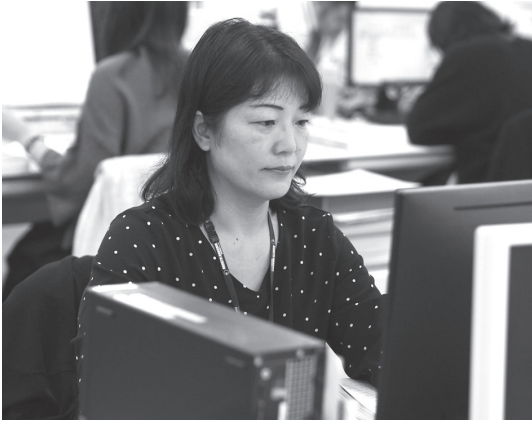
また、貨物を輸出する際にはさまざまな規制があり、経済産業大臣の許可・承認が必要になる物もあるので、それに該当しないかどうかも確認します。送り先が、例えばイラン、イラク、北朝鮮など特定の国である場合は、そのための必要書類が揃っているか、それらと輸出貨物が合っているかをチェックします。そして、申告の要件がすべて整った時点でコンピュータに入力し、税関に申告データを送信します。

輸出入されるさまざまな物

—対象となるのはあらゆる物に及ぶというわけですね。

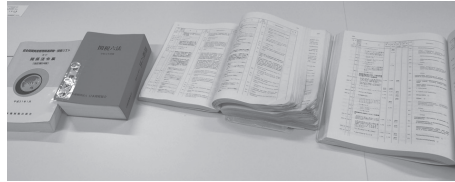
片岡 取り扱う貨物の品目は実にさま

*後に阪急交通社の国際輸送事業が「阪急エクスプレス」に承継され、2009年に阪神エアカーゴとの統合により、現社名「阪急阪神エクスプレス」となる。通関業、倉庫業を含む国際物流を主な事業とする。



通関士は輸出入申告に責任を持っている。申告書には通関士識別符号も記載されるため、どの通関士が申告したかがわかる。

▼日々の業務で使う輸出統計品目表、関税六法など。



さまざま、電子部品、電化製品、玩具、アパレル、自動車、生鮮品、動物、そのほかこの世に存在するあらゆるものと言っている。それらをすべて品目番号にあてはめて申告しなければなりません。見た目は同じものであっても材質によって違う品目番号になりますので、どれが正しいのかを判断してその

品目番号を決めるのが大変です。

輸出申告は、申告と同時に許可されるもの(簡易審査)と、税関が書類を審査してから許可されるもの(書類審査)、また貨物を検査してからでないと許可されないもの(貨物検査)があります。貨物検査となった場合は、例えば申告した税関が成田航空貨物出張所であれば、成田空港の当社通関営業所の担当者へ検査の立ち会いを依頼します。

以前は、千葉県市川市原木の税関の近くに通関営業所があり、税関の通関窓口まで書類を提出しに行っていました。貨物を置いている場所が近く、実際の貨物を自らの目で見て内容点検をして申告していたので、商品知識の勉強にもなりましたね。今は貨物のある場所と通関営業所が離れていて貨物を見る機会が少なくなりましたが、

——どのような点にご苦労されますか。

片岡 通関手続きをお客様の代理としてやらせていただいているわけですから、税関から申告内容の説明を求められて税関の窓口に向くこともありま

す。カタログ等を取り寄せて商品の詳しい説明をすることもありますね。

航空貨物の場合は、フライトのスケジュールとの関係で時間との闘いになることもあります。すごく大きな貨物を当日の便に載せなくてはいけない場合、出発の2、3時間前には許可が下りていないと搭載が間に合わないで、時間配分が大事になってきます。その航空機に載せられないとスペースに穴を空けてしまうことになります。

通関士は、いかにお客様の商品についての知識をきちんと持っているかが問われます。税関に的確に説明して納

得してもらうことによって、スムーズな輸出ができる。輸出できずに商品が止まってしまつては困るわけです。

今当課には、通関士と通関従業者が15人ほどいるんですが、1日200件〜300件、多いときは約700件の輸出申告に対応します。優先順位をつけて、いかに要領よく処理するかですね。課内の連携が不可欠です。

また、新しい商品というのは、それまで見たことも使ったこともないので、一から調べてどの品目番号に該当するかを判断していきます。カタログを入手し、ネットで検索してもその判断が難しい場合があります。いくつかの候補のうち、どれに当たるかを上司に相談したり、事前教示の実績が載っている税関のホームページを参考にしたりし、どうしても判断が難しい場合は、税関に照会したりします。

常に新しい情報を取り入れていく必要があるのですが、ニュースなどで政治・法律関係の情報を常に頭に入れるようにしています。また、外に出かけたときに、例えば車の備品を見たら品目番号の所属区分を思い浮かべたり、日々の生活でも新しいものがあつたら、同じようにこれはどこに当てはまるのかなど考えたりもしていますね。

——どういう点にやりがいを感じますか。

片岡 急いでいる大量の案件を時間内に終わらせることができたときや、税関との折衝でこちらの説明が伝わって許可を取得したときなどは達成感を感じますね。それはチームワークがあればこそだと思います。社員にはそれぞれ得意分野があり、教え合い協力し合つて、何百件という輸出申告を時間内に

終わらせる。お互い聞きやすく、情報交換のできる良い雰囲気職場ですね。

——これからの目標はありますか。

片岡 日本通関業連合会で女性通関士のワーキンググループがあり、全国の女性通関士が集まって会合を開いていて、私も参加しています。いかに通関士の認知度を向上させていくかなどについて意見を話し合い、いろいろな活動を進めています。通関士の担っている大事な役割を、世間一般の方々にもっと知っていただきたいですね。

常に新しい情報に接し、世の中とともに動く通関士

——通関士のお仕事の魅力は何ですか？

片岡 社会のいろいろな情報がすぐに入りますし、それを活かせる仕事です。常に新しい情報が入ってくるというのは新鮮で、それまで知らなかった世界もわかる。女性も子育てしながら長く続けていける仕事だと思います。女性ならではの得意分野—化粧品や衣類、食品などの品目—もたくさんありますし、それを活かせる面白い職業ではないでしょうか。

——どういう人が向いていると思われませんか。

片岡 何事にも興味を持てる人、好奇心の強い人ですね。また、チームワークが大切なので、コミュニケーション力の高い人は向いていると思います。自分が輸出通関した材料(生地)が海外で加工後輸入され、それが商品洋服)になって店頭で並んでいるのを見ると嬉しくなったりします。社会に役立つ仕事だと思えます。